家庭数配布

大王松

町田市立南第一小学校
学校だより
２０１８年4月２７日　第2号

子供の本から学ぶこと

校長　清水　淳

保護者会でお伝えしましたが、今年度は「真の体力」を子供たちに身に付けさせるだけでなく、読書活動にも力を入れていきます。昨年１年間をかけて、６年間の小学校生活で子供たちに読んでほしい１００冊を選定しました。題して「南一の１００冊」です。すでに注文を終え、あとは予算が配付されるのを待つだけです。子供たちが本を手にする姿を想像し、今からとても楽しみにしています。

１００冊の中には、私が小学生の時に夢中で読んだ本が何冊かあります。その中の一冊に「エルマーのぼうけん」があります。強いて読むべき時機をいうならば、絵本の世界から文字で想像する物語の世界へ関心をもった頃の子供でしょうか。エルマーは実に子供らしい子供であり、とても冷静です。ピンチに陥っても泣きわめいたりしません。子供は賢く、大人がいなければ自分で何とかしようと冷静に行動するものだと改めて思います。エルマーは、腕力や武器で勝負を挑みません。持ち物と知恵で問題を解決していきます。読み進めるうちに子供は、工夫や知恵でいくらでも世の中を渡っていけるんだと気付くことでしょう。

そして、何よりもエルマーは礼儀正しい子供です。冒頭で老いた野良猫に会ったときも、敬語を使い、丁寧に接します。そう、どんなときも誰に対しても礼儀正しいのです。互いを思いやれるようになれば、人間関係のほとんどの問題は解決できるはずです。礼儀正しさは人生を豊かにすることにつながります。子供とは本来、あらゆる世界に対して対等に接しているのかもしれません。「あの人は偉い人だから」と勝手に順位を付けて接している今話題の忖度する大人とは大違いです。

「エルマーのぼうけん」を読み返して思うこと。それは、子供は賢くすてきな存在であるということ。「子供は大人の父」という詩の一節があります。いつまでも子供の頃の瑞々しい気持ちを忘れたくないものです。大人になるということ。それは、様々な知識を得て賢くなることです。ただし、いろいろなことを知りすぎて、本当に大切なものが見えなくなってしまうこともあるかもしれません。エルマーの礼儀正しさと、忖度する大人。物語と現実を照らし合わせて読むと、なかなか奥深いものを感じます。

「エルマーのぼうけん」は、1948 年に出版された本です。70 年もの時間を経てもなお、読み継がれている作品はなかなかありません。ただ、児童文学書には時を超えた名作、ロングセラーが多々見られます。「ぐりとぐら（1963 年）」「龍の子太郎（1960 年）」「ナルニア国物語（1950 年）」「ドリトル先生航海記（1922 年）」「シートン動物記（1896 年）」「トムソーヤの冒険（1876 年）」などなど。子供にとって大切なものは、いつの時代でも変わらないのかもしれません。ちなみに、今紹介した本は、全て「南一の１００冊」に選ばれています。４月２３日から５月１２日は「こどもの読書週間」です。今年の標語は『はじまるよ!!本のカーニバル!!!』です。本を読むとわくわくする。本を読んでもっと楽しもう！という願いが込められているそうです。連休も重なります。親子で児童文学書を手に取り、それぞれの感覚で読み味わい、物語の世界を旅してみるのもすてきな連休の過ごし方だと思います。